

No.3

A WORD FROM ANOTHER WORLD



The year 2012...

Karin Strom

What will it hold? 2012 has been largely depicted in history, literature, arts and the media. Beliefs about the year 2012 range from spiritually transformative to globally cooperative to apocalyptic. These beliefs are based largely on interpretations of the ancient Mayan Long Count calendar, which basically shows that the world ends in 2012. Books have been published, movies released and websites founded in honor of this year. Apocalyptic musings aside, the year 2012 has potential for greatness. It has been designated as the International Year of Sustainable Energy for All, by the United Nations General Assembly. As the world seeks sustainable energy and resources this year, what will you be seeking in your own life?

For me, I hope 2012 is a year of taking risks and living every moment to its fullest. I hope to take the risk of trying something new or going somewhere I have never gone before. In 2011, I began my adventure here in Japan. This year, I want to expand my experiences. I hope to reach new heights, both physically -I hope to climb Mt. Rishri and mentally -I hope to improve my Japanese (among other things). Community comrades, lets encourage one another in our goals. 2012 -lets make it epic.

2012年

カリン ストロム

2012年は、何が待ち受けているのでしょうか。歴史や文学、アートやメディアで広く語られる年2012。精神的な変容を遂げる年だとか、地球規模で助け合う年だとか、果ては終末論まで。これらは主に古代マヤ暦(※)を元にした解釈で、2012年この世は終わりを迎えるというものです。今年に向けて多くの本が出版され、映画が上映され、ネットには数々のサイトが立ち上げられました。さて、そんな話はさておき、この1年は素晴らしい年になる可能性を秘めています。国連(国際連合)総会は今年を「国際持続可能エネルギー年」に指定しました。世界が維持可能なエネルギーと資源を求め中、あなたは人生に何を求めますか。

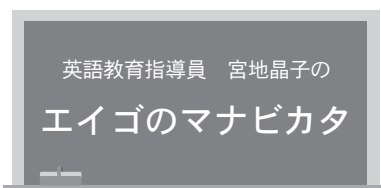
私は危険を冒しても、一瞬一瞬を生きる1年にしたいと思っています。何か新しいことに挑戦したり、行ったことのないところに行ってみたい。2011年、私の冒険は日本から始まりました。今年はいろんな経験をしたい。新たな高みを目指して、身体面では利尻山登山を、知性面ではとりわけ日本語上達を目指したい。地域の仲間の皆さん、励まし合ってゴールを目指しましょう。2012年を記憶に残る一年に!

【ちょっと豆知識】 宮地晶子

(※) マヤ長期暦 (Mayan Long Count Calendar) と終末論

メキシコやグアテマラなどで栄えたマヤ文明。マヤの人々は天体観測に優れ、精密な暦を持っていたそうです。そのマヤ暦が2012年の冬至付近で終わることから人類滅亡説が流れ、ノストラダムスの大予言に次ぐ終末論として話題になったようです。

(訳:宮地晶子)



英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴのマナビカタ

第82回

行け行け、タイガース!?

ない。そうそう、以前「トリビアの泉」というテレビ番組で取り上げていました。

「ジーニアス英和辞典」は阪神びいき。「the Tigers」を使った例文がやたらと多い、という話。辞書を引いてみたら、出るわ、出るわ。

「Saying “ Oh, yeah” is a habit of the Tiger’ s manager Okada.」=『そりゃそうや』というのがタイガースの岡田監督の口癖だ。「When I got drafted by the

「またあったよ」。子供が見せてくれたのは電子辞書の例文。

「The Tigers has the game on ice.」=タイガースが試合に勝つことは間違いない。

Tigers, it was the happiest day of my father’ s life.」

=私がタイガースにドラフトで指名された時は、父にとって人生最良の日であった。「The Tigers won a crucial game that put them in first place.」=タイガースは勝てば首位という大事な試合をものにした、などなど…。

辞書編集者や執筆者に関西出身者が多かったらしいですが、実は小学館の「プログレッシブ和英中辞典」も阪神びいきです。イチローや松井も結構出てきます。電子辞書の例文検索機能を使えば「Tigers」と入力するだけで、ずらっと出てきます。

阪神にこだわらないなら英英辞典がお勧め。私のは「オックスフォード英英辞典」。基本語彙(ごい)3千語を使って書かれた例文はとても自然。自分の書いた英文に自信が持てない時にも、同じような表現がないか調べられます。準2級レベルの人には基本語彙が2千語の「ロングマン英英辞典」がお勧めです。例文は生きた英語に手軽に触れるチャンス。どんどん使いましょ。